

# Sparse tree 上のグラフラプシアンに付随する スペクトル測度の Hausdorff 次元

九州大学大学院 数理学府 博士課程 宇治野 広大

Kota Ujino

Graduate School of Mathematics, Kyushu University

## 1 導入と主結果

可算集合  $V$  とその部分集合族  $E$  が  $E \subset \{p \in 2^V \mid \#p = 2\}$  を満たすとき  $(V, E)$  をグラフという。  $V, E$  の元をグラフの頂点, 辺という。 頂点  $a, b$  が  $\{a, b\} \in E$  を満たすとき  $a, b$  は隣接するといひ,  $a \sim b$  と書く。 頂点  $a_1, a_2, \dots, a_n$  が  $j = 1, 2, \dots, n-1$  に対して  $a_j, a_{j+1}$  が隣接するとき  $a_1, a_n$  は結ばれるといひ,  $\{a_1, a_2, \dots, a_n\}$  を  $a_1, a_n$  の道という。 任意の頂点が結ばれるときグラフは連結であるといひ。 頂点  $a$  の次数を  $\deg(a) = \#\{b \in V \mid a \sim b\}$  とする。  $G = (V, E)$  をグラフとし任意の頂点の次数が有限のとき  $G$  を局所有限であるといひ。 グラフ  $G = (V, E)$  が連結かつ任意の頂点  $a, b$  の道が一意的に定まるとき  $G$  は tree という。 Tree  $G$  の頂点  $o$  を一つ指定したとき  $G$  を rooted tree,  $o$  を root という。 Rooted tree  $G = (V, E)$  に対して  $V$  上の距離  $d(\cdot, \cdot)$  を次のように定義する： 頂点  $a, b$  に対して

$$d(a, b) = \begin{cases} 0, & a = b, \\ \#p(a, b) - 1, & a \neq b. \end{cases}$$

$V$  の部分集合  $S_n, n = 0, 1, \dots$  を  $S_n = \{a \in V \mid d(o, a) = n\}$  とする。  $G$  を rooted tree とし  $S_n$  の任意の頂点の次数が等しいとき  $G$  を spherically homogeneous tree という。  $G$  を spherically homogeneous tree とし  $S_n$  の頂点の次数を  $d_n$  とする。 このとき  $G$  は次の数列  $(g_n)_{n=0}^\infty$  で一意的に定まる：

$$g_n = \begin{cases} d_0, & n = 0, \\ d_n - 1, & n \geq 1. \end{cases}$$

**定義 1.1.**  $L_n = 2^{n^\Gamma}, n = 1, 2, \dots, \Gamma \in (0, 1)$  とする。 次の数列  $(g_n)_{n=0}^\infty$  で定まる spherically homogeneous tree  $G$  を  $\Gamma$ -sparse tree という：

$$g_n = \begin{cases} [n^{\frac{1-\Gamma}{\Gamma}}], & n \in \{L_m \mid m \in \mathbb{N}\}, \\ 1, & n \notin \{L_m \mid m \in \mathbb{N}\}. \end{cases}$$

$G = (V, E)$  を局所有限なグラフとし  $V$  上の二乗可積分関数空間を  $l^2(V)$  とする。 このとき  $l^2(V)$  は次の内積  $(\cdot, \cdot)$  でヒルベルト空間となる：

$$(f, g) = \sum_{u \in V} \overline{f(u)}g(u).$$

$l^2(V)$  の部分空間  $\mathcal{D}$  を  $\mathcal{D} = \{f : V \rightarrow \mathbb{C} \mid \text{supp}f < \infty\}$  とする。  $L, A, D : l^2(V) \rightarrow l^2(V)$  を次のように定義

する :  $f \in \mathcal{D}$  に対して

$$\begin{aligned} Lf(u) &= \sum_{v \sim u} (f(v) - f(u)), \\ Af(u) &= \sum_{v \sim u} f(v), \\ Df(u) &= \sum_{v \sim u} f(u) = \deg(u)f(u). \end{aligned}$$

$L, A, D$  をグラフラプラシアン, 隣接行列, 次数行列という.  $L$  は本質的自己共役である.

$(X, d_X)$  を距離空間,  $\mathcal{B}(X)$  を  $(X, d_X)$  のボレル集合族とする.  $A$  を  $X$  の部分集合とし  $d_X(A) = \sup\{d_X(x, y) \mid x, y \in A\}$  とする.  $X$  の部分集合族  $\{A_i\}_{i=1}^{\infty}$  が  $A \subset \cup_{i=1}^{\infty} A_i$  かつ  $\sup_{i=1}^{\infty} d_X(A_i) \leq \delta$  を満たすとき  $\{A_i\}_{i=1}^{\infty}$  は  $A$  の  $\delta$ -cover という.

**定義 1.2.**  $\alpha \in [0, \infty)$  とする.  $h_{\delta}^{\alpha}, h^{\alpha} : 2^X \rightarrow [0, \infty]$  を次のように定義する :

$$\begin{aligned} h_{\delta}^{\alpha}(A) &= \inf \left\{ \sum_{i=1}^{\infty} d_X(A_i)^{\alpha} \mid \{A_i\}_{i=1}^{\infty} \text{ is a } \delta\text{-cover of } A \right\}, \\ h^{\alpha}(A) &= \lim_{\delta \rightarrow 0} h_{\delta}^{\alpha}(A). \end{aligned}$$

$h^{\alpha}$  を  $X$  の  $\alpha$  次元 Hausdorff 測度という. 実際  $h^{\alpha}$  を  $\mathcal{B}(X)$  に制限したものは測度となる.  $X$  の部分集合  $A$  の Hausdorff 次元  $\dim A$  を次のように定義する :

$$\dim A = \sup \{ \alpha \mid h^{\alpha}(A) \neq 0 \}.$$

測度  $\mu : \mathcal{B}(X) \rightarrow [0, \infty]$  の下側 Hausdorff 次元  $\dim_* \mu$ , 上側 Hausdorff 次元  $\dim^* \mu$  を次のように定義する :

$$\begin{aligned} \dim_* \mu &= \inf \{ \dim A \mid A \in \mathcal{B}(X) \text{ such that } \mu(A) \neq 0 \}, \\ \dim^* \mu &= \inf \{ \dim A \mid A \in \mathcal{B}(X) \text{ such that } \mu(\mathbb{R} \setminus A) = 0 \}. \end{aligned}$$

$\dim_* \mu = \dim^* \mu = \alpha$  を満たすとき  $\mu$  は Hausdorff 次元を持つといい,  $\alpha$  を  $\mu$  の Hausdorff 次元という.

**補題 1.3** (J.Bruer [2]).  $G = (V, E)$  を  $\Gamma$ -sparse tree,  $H : l^2(V) \rightarrow l^2(V)$  を  $H = -\bar{L}$  とする.  $E$  を  $H$  に付随するスペクトル測度,  $E$  を  $(0, 4)$  に制限したものを  $\tilde{E}$  とする. このとき次が成り立つ :

- (1)  $\sigma_{ac}(H) = \emptyset$ ,  $\sigma_{pp}(H) \cap (0, 4) = \emptyset$ ,  $\sigma_{sc}(H) \cap (0, 4) = (0, 4)$ ,
- (2)  $\Gamma \leq \dim_* \tilde{E} \leq \dim^* \tilde{E} \leq \frac{2\Gamma}{1+\Gamma}$ .

**定理 1.4.** 補題 1.3 と同じように仮定する. このとき  $\Gamma \leq \dim_* \tilde{E} \leq \dim^* \tilde{E} \leq \Gamma$  が成り立つ.  $\tilde{E}$  は Hausdorff 次元を持ち  $\tilde{E}$  の次元は  $\Gamma$  である.

## 2 グラフラプラシアンの直和分解

$G = (V, E)$  を数列  $(g_n)_{n=0}^{\infty}$  で定まる spherically homogeneous tree とする.  $\pi_n : l^2(S_n) \rightarrow l^2(S_{n+1})$ ,  $n = 0, 1, \dots$ , を次のように定義する :

$$\pi_n f(u) = \sum_{v \in S_n : v \sim u} f(v), \quad u \in S_{n+1}.$$

このとき  $\pi_n^* : l^2(S_{n+1}) \rightarrow l^2(S_n)$  は次のようになる :

$$\pi_n^* g(u) = \sum_{v \in S_{n+1} : v \sim u} g(v), \quad u \in S_n.$$

補題 2.1.  $f, g \in l^2(S_n)$  に対して  $(\pi_n f, \pi_n g) = g_n(f, g)$ .

$V = \sqcup_{n=0}^{\infty} S_n$  なので  $l^2(V) = \bigoplus_{n=0}^{\infty} l^2(S_n)$  が成り立つ.  $\Pi : l^2(V) \rightarrow l^2(V)$  を  $\Pi = \bigoplus_{n=0}^{\infty} \pi_n$  とする.

補題 2.2.  $f \in \mathcal{D}$  に対して  $Af = (\Pi + \Pi^*)f$ .

数列  $\{\alpha_n\}_{n=0}^{\infty}$  を  $\alpha_n = \#S_n = \dim(l^2(S_n))$ ,  $\{e_k^{(n)}\}_{k=1}^{\alpha_n}$  を  $l^2(S_n)$  の完全正規直交系とする. このとき以下の方法で  $l^2(S_{n+1})$  の完全正規直交系  $\{e_k^{(n+1)}\}_{k=1}^{\alpha_{n+1}}$  が得られる:  $e_k^{(n+1)} \in l^2(S_{n+1})$  を  $e_k^{(n+1)} = \|\pi_n e_k^{(n)}\|^{-1} \pi_n e_k^{(n)}$ ,  $k = 1, 2, \dots, \alpha_n$  とする. 補題 2.1 より  $\{e_k^{(n+1)}\}_{k=1}^{\alpha_n}$  は  $l^2(S_{n+1})$  の正規直交系である. もし  $\alpha_n = \alpha_{n+1}$  ならば  $\{e_k^{(n+1)}\}_{k=1}^{\alpha_n}$  は  $l^2(S_{n+1})$  の完全正規直交系である. もし  $\alpha_n < \alpha_{n+1}$  ならばグラム・シュミットの直交化法より  $l^2(S_{n+1})$  の正規直交系  $e_k^{(n+1)} \in l^2(S_{n+1})$ ,  $k = \alpha_n + 1, \dots, \alpha_{n+1}$  が得られ,  $\{e_k^{(n+1)}\}_{k=1}^{\alpha_n} \cup \{e_k^{(n+1)}\}_{k=\alpha_n+1}^{\alpha_{n+1}}$  は  $l^2(S_{n+1})$  の完全正規直交系になる.

$l^2(S_0)$  の完全正規直交系が与えられたとき, 上の方法で  $l^2(S_n)$  の完全正規直交系  $\{e_k^{(n)}\}_{k=1}^{\alpha_n}$ ,  $n = 0, 1, \dots$  が帰納的に得られる. このとき  $\bigcup_{n=0}^{\infty} \{e_k^{(n)}\}_{k=1}^{\alpha_n}$  は  $l^2(V)$  の完全正規直交系である.

$\sup_{n=0,1,\dots} \alpha_n = \infty$  と仮定し  $\alpha_{-1} = 0$  とする. 数列  $\{\alpha_n\}_{n=0}^{\infty}$  は非減少なので, 与えられた  $k \in \mathbb{N}$  に対して  $N(k) \in \mathbb{N} \cup \{0\}$  が存在し  $\alpha_{N(k)-1} < k \leq \alpha_{N(k)}$  が成り立つ. このとき

$$\bigcup_{n=0}^{\infty} \{e_k^{(n)} \mid k = 1, 2, \dots, \alpha_n\} = \bigcup_{k=1}^{\infty} \{e_k^{(n)} \mid n = N(k), N(k) + 1, \dots\}.$$

補題 2.3.  $l^2(V)$  の閉部分空間  $M_k$ ,  $k = 1, 2, \dots$ , を

$$M_k = \overline{\{e_k^{(n)} \mid n = N(k), N(k) + 1, \dots\}}$$

とする. このとき  $M_k$  は  $A, D, H$  で不変である.

補題 2.3 より  $H, A, D$  を  $M_k$  に制限したものを  $H^{(k)}, A^{(k)}, D^{(k)} : M_k \rightarrow M_k$ ,  $k = 1, 2, \dots$  とする. このとき  $H^{(k)}$  は自己共役かつ  $H = \bigoplus_{k=1}^{\infty} H^{(k)}$  が成り立つ.

$G = (V, E)$  を  $\Gamma$ -sparse tree とする.  $k \geq 2$  のとき次が成り立つ:  $n, m \geq N(k)$  に対して

$$\begin{aligned} (e_k^{(n)}, H^{(k)} e_k^{(n)}) &= (e_k^{(n)}, D^{(k)} e_k^{(n)}) = g_n + 1, \\ (e_k^{(n)}, H^{(k)} e_k^{(n+1)}) &= -(e_k^{(n)}, A^{(k)} e_k^{(n+1)}) = -\sqrt{g_n}, \\ (e_k^{(n)}, H^{(k)} e_k^{(m)}) &= 0, \text{ if } |n - m| \geq 2. \end{aligned}$$

更に次が成り立つ:  $n, m \geq N(1) = 0$  に対して

$$\begin{aligned} (e_1^{(n)}, H^{(1)} e_1^{(n)}) &= (e_1^{(n)}, D^{(1)} e_1^{(n)}) = \begin{cases} g_0 & (n = 0), \\ g_n + 1 & (n \geq 1), \end{cases} \\ (e_1^{(n)}, H^{(1)} e_1^{(n+1)}) &= -(e_1^{(n)}, A^{(1)} e_1^{(n+1)}) = -\sqrt{g_n}, \\ (e_1^{(n)}, H^{(1)} e_1^{(m)}) &= 0, \text{ if } |n - m| \geq 2. \end{aligned}$$

定義 2.4.  $k \in \mathbb{N}$  として数列  $d_k = (d_k(n))_{n=1}^{\infty}$ ,  $a_k = (a_k(n))_{n=1}^{\infty}$  を次で定義する:

$$\begin{aligned} d_k(n) &= (e_k^{(n+N(k)-1)}, D^{(k)} e_k^{(n+N(k)-1)}), \\ a_k(n) &= (e_k^{(n+N(k))}, A^{(k)} e_k^{(n+N(k)-1)}). \end{aligned}$$

以降では  $H^{(k)} : l^2(\mathbb{N}) \rightarrow l^2(\mathbb{N})$ ,  $k = 1, 2, \dots$ , を次の Jacobi 行列と同一視する :

$$H^{(k)} = \begin{pmatrix} d_k(1) & -a_k(1) & & & \\ -a_k(1) & d_k(2) & -a_k(2) & & \\ & -a_k(2) & d_k(3) & -a_k(3) & \\ & & -a_k(3) & \ddots & \ddots \\ & & & \ddots & \ddots \end{pmatrix}.$$

同様に  $A^{(k)}, D^{(k)} : l^2(\mathbb{N}) \rightarrow l^2(\mathbb{N})$  を次の Jacobi 行列と同一視する :

$$A^{(k)} = \begin{pmatrix} 0 & a_k(1) & & & \\ a_k(1) & 0 & a_k(2) & & \\ & a_k(2) & 0 & a_k(3) & \\ & & a_k(3) & \ddots & \ddots \\ & & & \ddots & \ddots \end{pmatrix}, D^{(k)} = \begin{pmatrix} d_k(1) & & & & \\ & d_k(2) & & & \\ & & d_k(3) & & \\ & & & \ddots & \\ & & & & \ddots \end{pmatrix}.$$

### 3 Intermittency 関数と Hausdorff 次元

#### 3.1 Hölder 連続性と Fourier 変換

**定義 3.1.**  $\nu : \mathcal{B}(\mathbb{R}) \rightarrow [0, \infty]$  を測度,  $f \in L^1(\mathbb{R}, d\nu)$ ,  $\alpha \in (0, 1)$  とする.  $\widehat{f\nu}(\xi)$  を次のように定義する :  $\xi \in \mathbb{R}$  に対して

$$\widehat{f\nu}(\xi) = \int_{\mathbb{R}} f(x)e^{-i\xi x} \nu(dx).$$

定数  $C > 0$  が存在し, 区間  $I \subset \mathbb{R}$  に対して  $\mathcal{L}(I) < 1$  ならば  $\nu(I) < C\mathcal{L}(I)^\alpha$  を満たすとき  $\nu$  は  $\alpha$ -Hölder 連続であるという. ここで  $\mathcal{L}(\cdot)$  は一次元 Lebesgue 測度である.

**補題 3.2** (Strichartz, Robert S[5]). 有限測度  $\nu$  が  $\alpha$ -Hölder 連続とする. このとき  $C_1 = C_1(\alpha, \nu) > 0$  が存在し, 任意の  $f \in L^2(\mathbb{R}, d\nu)$  に対して

$$\sup_{T \geq 1} T^{\alpha-1} \int_0^\infty e^{-\frac{t}{T}} |\widehat{f\nu}(t)|^2 dt \leq C_1 \|f\|^2.$$

#### 3.2 Intermittency 関数と上側 Hausdorff 次元

**定義 3.3.**  $\psi \in l^2(\mathbb{N})$ ,  $E^{(k)}$  を  $H^{(k)}$  に付随するスペクトル測度とする. 有限測度  $\mu_\psi^{(k)} : \mathcal{B}(\mathbb{R}) \rightarrow [0, \infty]$  を次のように定義する :  $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R})$  に対して

$$\mu_\psi^{(k)}(A) = (\psi, E^{(k)}(A)\psi).$$

$t \in \mathbb{R}, n \in \mathbb{N}$  に対して  $\psi_k(t) = e^{-itH^{(k)}}\psi$ ,  $\psi_k(t, n) = (\delta_n, \psi_k(t))$  とする.  $a_\psi^{(k)}(n, T)$ ,  $\langle |X|^p \rangle_\psi^{(k)}(T)$ ,  $\beta_\psi^{(k)}(p)$  を次のように定義する:  $n \in \mathbb{N}, T > 0, p > 0$  に対して

$$\begin{aligned} a_\psi^{(k)}(n, T) &= \frac{1}{T} \int_0^\infty e^{-\frac{t}{T}} |\psi_k(t, n)|^2 dt, \\ \langle |X|^p \rangle_\psi^{(k)}(T) &= \sum_{n=1}^\infty n^p a_\psi^{(k)}(n, T), \\ \beta_\psi^{(k)}(p) &= \frac{1}{p} \liminf_{T \rightarrow \infty} \frac{\log \langle |X|^p \rangle_\psi^{(k)}(T)}{\log T}. \end{aligned}$$

$\beta_\psi^{(k)}$  を intermittency 関数という.

補題 3.2 より次の補題が導かれる.

**補題 3.4** (Barbaroux, J. M., J. M. Combes, R. Montcho[1]).  $\alpha = \dim^*(\mu_\psi^{(k)})$ ,  $\epsilon > 0$  とする. このとき  $C_2 = C_2(\epsilon, \psi) > 0$  が存在し, 任意の  $T > 0$  に対して

$$\langle |X|^p \rangle_\psi^{(k)}(T) \geq C_2 T^{p(\alpha - \epsilon)}.$$

特に任意の  $p > 0$  に対して

$$\dim^*(\mu_\psi^{(k)}) \leq \beta_\psi^{(k)}(p).$$

## 4 Intermittency 関数の評価

この節は Tcheremchantsev, Serguei[6] を参考にしている.

**定義 4.1.**  $f : \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{C}$  を可測関数,  $0 < l < 4$ ,  $B_l = [l, 4 - l] \subset \mathbb{R}$  とする.  $f$  が第一種関数であるとは  $L > 0, x_0 \in B_L$  が存在し  $f \in C_0^\infty(B_L)$  かつ  $f(x_0) \neq 0$  を満たすことである.  $f$  が第二種関数であるとは  $f$  は有界かつ  $E_0 \in (0, 4)$ ,  $L > 0$  が存在し  $[E_0 - L, E_0 + L] \subset B_L$ ,  $f \in C^\infty([E_0 - L, E_0 + L])$  かつ  $x \in [E_0 - \nu, E_0 + \nu]$  に対して  $|f(x)| \geq c > 0$  を満たすことである.

$\psi \in l^2(\mathbb{N})$  とし  $m_\psi^{(k)} : \mathbb{C}^+ \rightarrow \mathbb{C}^+$  を次のように定義する:

$$m_\psi^{(k)}(z) = \int_{\mathbb{R}} \frac{\mu_\psi^{(k)}(d\lambda)}{\lambda - z} = (\psi, (H^{(k)} - z)^{-1}\psi).$$

$B \in \mathcal{B}(\mathbb{R}), \epsilon > 0$  に対して

$$I_\psi^{(k)}(\epsilon, B) = \epsilon \int_B dE |\operatorname{Im} m_\psi^{(k)}(E + i\epsilon)|^2$$

と定義する.

**補題 4.2.**  $f$  を有界な第一種関数,  $\psi = f(H^{(k)})\delta_1$ ,  $p > 0$  とする. このとき  $N$  を十分大きくすれば定数  $C_3 > 0$  と数列  $(q_n)_{n=1}^\infty \subset \mathbb{R}$  が存在して  $\lim_{n \rightarrow \infty} q_n = 0$  かつ  $\frac{L_N}{4} < T < \frac{L_{N+1}}{4}$  に対して

$$\begin{aligned} \langle |X|^p \rangle_\psi^{(k)}(T) &\geq C_3 I_{\delta_1}^{(k)}(T^{-1}, B_L)^{-p} \\ &\quad + C_3 \left( L_N^{p+1+q_N} + T^{p+1} L_N^{\frac{p-1}{\Gamma} + q_N} \right) I_{\delta_1}^{(k)}(T^{-1}, B_L). \end{aligned}$$

**補題 4.3.**  $f$  を有界な第一種関数,  $\psi = f(H^{(k)})\delta_1$  とする. このとき  $p > 0$  に対して

$$\beta_\psi^{(k)}(p) \geq \frac{p+1}{p + \frac{1}{\Gamma}}.$$

証明. 補題 4.2 より  $x = I_{\delta_1}^{(k)}(T^{-1}, B_\nu)$  とすると

$$\langle |X|^p \rangle_\psi^{(k)}(T) \geq C_8 x^{-p} + C_8 \left( L_N^{p+1-q_N} + T^{p+1} L_N^{\frac{\Gamma-1}{\Gamma}-q_N} \right) x.$$

$g(x) = x^{-p} + Kx, x > 0$  とすると  $\inf_{x>0} g(x) = c(p)K^{\frac{p}{p+1}}, c(p) = p^{-\frac{p}{p+1}} + p^{\frac{1}{p+1}}$  となる.  $\frac{L_N}{4} \leq T \leq \frac{L_{N+1}}{4}$  とすると  $C'_3 = C'_3(p) > 0$  が存在して

$$\begin{aligned} \langle |X|^p \rangle_\psi^{(k)}(T) &\geq c(p)C_3 \left( L_N^{p+1-q_N} + T^{p+1} L_N^{\frac{\Gamma-1}{\Gamma}-q_N} \right)^{\frac{p}{p+1}} \\ &\geq C'_3 L_N^{-\frac{p}{p+1}q_N} \left( L_N^{p+1} + T^{p+1} L_N^{\frac{\Gamma-1}{\Gamma}} \right)^{\frac{p}{p+1}}. \end{aligned}$$

$\frac{L_N}{4} \leq T \leq L_N^A, A = \frac{p+\frac{1}{\Gamma}}{p+1}$  とすると

$$\langle |X|^p \rangle_\psi^{(k)}(T) \geq C'_3 L_N^{-\frac{p}{p+1}q_N} L_N^p \geq C'_3 L_N^{-\frac{p}{p+1}q_N} T^{\frac{p}{A}}. \quad (1)$$

$L_N^A \leq T \leq \frac{L_{N+1}}{4}$  とすると

$$\langle |X|^p \rangle_\psi^{(k)}(T) \geq C'_8 L_N^{-\frac{p}{p+1}q_N} T^p L_N^{\frac{\Gamma-1}{\Gamma}-\frac{p}{p+1}} \geq C'_8 L_N^{-\frac{p}{p+1}q_N} T^{\frac{p}{A}}. \quad (2)$$

(1), (2) より  $T > 0$  を十分大きくすると任意の  $\epsilon > 0$  に対して

$$\langle |X|^p \rangle_\psi^{(k)}(T) \geq C'_8 T^{\frac{p}{A}-\epsilon}$$

が成り立ち, 次が得られる:

$$\beta_\psi^{(k)}(p) = \frac{1}{p} \liminf_{T \rightarrow \infty} \frac{\log \langle |X|^p \rangle_\psi^{(k)}(T)}{\log T} \geq \frac{p+1}{p+\frac{1}{\Gamma}} - \frac{\epsilon}{p}.$$

□

補題 4.4.  $f$  を第一種関数,  $\psi = f(H^{(k)})\delta_1, p > 0$  とする. このとき  $C_4 = C_4(p) > 0$  が存在し,  $N$  を十分大きくすると  $L_N \leq T \leq L_N^{\frac{1}{\Gamma}}$  に対して

$$\langle |X|^p \rangle_\psi^{(k)}(T) \leq C_4 L_N^p + C_4 T^{p+1} L_N^{-\frac{1}{\Gamma}}.$$

補題 4.5.  $f$  を第一種関数,  $\psi = f(H^{(k)})\delta_1$  とする. このとき  $p > 0$  に対して

$$\beta_\psi^{(k)}(p) \leq \frac{p+1}{p+\frac{1}{\Gamma}}.$$

証明.  $L_N \leq T = L_N^A \leq L_N^{\frac{1}{\Gamma}}, A = \frac{p+\frac{1}{\Gamma}}{p+1}$  とする. 補題 4.4 より

$$\langle |X|^p \rangle_\psi^{(k)}(L_N^A) \leq C_4 L_N^p$$

が成り立ち, 次が得られる:

$$\beta_\psi^{(k)}(p) \leq \frac{1}{p} \lim_{N \rightarrow \infty} \frac{\log \langle |X|^p \rangle_\psi^{(k)}(L_N^A)}{\log L_N^A} \leq A^{-1} = \frac{p+1}{p+\frac{1}{\Gamma}}.$$

□

## 5 定理 1.4 の証明

**補題 5.1.**  $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R})$  とする. このとき  $E(A) = 0$  が成り立つための必要十分条件は任意の  $k \in \mathbb{N}$  に対して  $\mu_{\delta_1}^{(k)}(A) = 0$  が成り立つことである.

**証明.**  $E(A) = 0$  と仮定すると  $E^{(k)}(A) = 0$  であり

$$\mu_{\delta_1}^{(k)}(A) = (\delta_1, E^{(k)}(A)\delta_1) = 0.$$

次に任意の  $k \in \mathbb{N}$  に対して  $\mu_{\delta_1}^{(k)}(A) = 0$  と仮定する. 任意の  $k \in \mathbb{N}$  に対して  $E^{(k)}(A) = 0$  であることを示せば十分である.  $p$  を多項式とすると

$$\mu_{p(H^{(k)})\delta_1}^{(k)}(A) = (p(H^{(k)})\delta_1, E^{(k)}(A)p(H^{(k)})\delta_1) = \int_A |p(\lambda)|^2 \mu_{\delta_1}^{(k)}(d\lambda) = 0.$$

これは  $E^{(k)}(A)p(H^{(k)})\delta_1 = 0$  を示している.  $\delta_1$  は  $H^{(k)} : l^2(\mathbb{N}) \rightarrow l^2(\mathbb{N})$  の cyclic vector なので,  $\{p(H^{(k)})\delta_1 \in l^2(\mathbb{N}) \mid p \text{ は多項式}\}$  は  $l^2(\mathbb{N})$  で稠密である. よって  $E^{(k)}(A) = 0$  である.  $\square$

**補題 5.2.**  $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}), A \subset (0, 4)$  とする. このとき  $\tilde{E}(A) = 0$  が成り立つための必要十分条件は任意の  $k \in \mathbb{N}$ , 第一種関数  $f$  に対して,  $\psi = f(H^{(k)})\delta_1$  としたとき  $\mu_{\psi}^{(k)}(A) = 0$  が成り立つことである. 更に  $\dim_* \tilde{E} = \dim_* \mu_{\psi}^{(k)}, \dim^* \tilde{E} = \dim^* \mu_{\psi}^{(k)}$  が成り立つ.

**証明.**  $\tilde{E}(A) = 0$  と仮定すると補題 5.1 より  $E^{(k)}(A) = 0$  なので

$$\mu_{\psi}^{(k)}(A) = (\psi, E^{(k)}(A)\psi) = 0.$$

任意の  $k \in \mathbb{N}$  と第一種関数  $f$  に対して  $\psi = f(H^{(k)})\delta_1$  としたとき  $\mu_{\psi}^{(k)}(A) = 0$  と仮定する. 任意の  $k \in \mathbb{N}$  に対して  $E^{(k)}(A) = 0$  であることを示せば十分である.  $f_n \in C_0^\infty(\frac{1}{n}, 4 - \frac{1}{n})$  は  $|f_n| \leq 1$  かつ区間  $(\frac{2}{n}, 4 - \frac{2}{n})$  上で  $f_n = 1$  が成り立つとする.  $\psi_n = f_n(H^{(k)})\delta_1$  とすると  $f_n$  は第一種関数であり, 仮定より

$$\mu_{\psi_n}^{(k)}(A) = (f_n(H^{(k)})\delta_1, E^{(k)}(A)f_n(H^{(k)})\delta_1) = \int_A |f_n(\lambda)|^2 \mu_{\delta_1}^{(k)}(d\lambda) = 0.$$

Lebeasgue の優収束定理より

$$0 = \lim_{n \rightarrow \infty} \mu_{\psi_n}^{(k)}(A) = \lim_{n \rightarrow \infty} \int_A |f_n(\lambda)|^2 \mu_{\delta_1}^{(k)}(d\lambda) = \mu_{\delta_1}^{(k)}(A).$$

補題 5.1 より  $E^{(k)}(A) = 0$ . 後半の主張は測度の上側 (下側) Hausdorff 次元の定義より明らかである.  $\square$

**定理 1.4 の証明.** 補題 5.2 より任意の  $k \in \mathbb{N}$ , 第一種関数  $f$  に対して  $\psi = f(H^k)\delta_1$  として  $\dim_* \mu_{\psi}^{(k)} = \dim^* \mu_{\psi}^{(k)} = \Gamma$  が成り立つことを示せば十分である. 補題 1.3 より

$$\Gamma \leq \dim_* \mu_{\psi}^{(k)} \leq \dim^* \mu_{\psi}^{(k)}.$$

補題 3.4, 4.5 より任意の有界な第一種関数  $f, p > 0$  に対して

$$\dim^* (\mu_{\psi}^{(k)}) \leq \beta_{\psi}^{(k)}(p) = \frac{p+1}{p+\frac{1}{\Gamma}}.$$

$\square$

## 謝辞

研究代表者 安藤和典先生, 研究副代表者 森岡悠先生には発表の機会を頂き感謝申し上げます. この研究は JST SPRING, 助成番号 JPMJSP2136 の支援を受けて行われました.

## 参考文献

- [1] Barbaroux, J. M., J. M. Combes, and R. Montcho. "Remarks on the relation between quantum dynamics and fractal spectra." *Journal of Mathematical Analysis and Applications* 213.2 (1997): 698-722.
- [2] Breuer, Jonathan. "Singular continuous spectrum for the Laplacian on certain sparse trees." *Communications in mathematical physics* 269.3 (2007): 851-857.
- [3] Jitomirskaya, Svetlana, and Yoram Last. "Power-law subordinacy and singular spectra I. Half-line operators." *Acta Mathematica* 183.2 (1999): 171-189.
- [4] Simon, Barry, and Günter Stolz. "Operators with singular continuous spectrum, V. Sparse potentials." *Proceedings of the American Mathematical Society* 124.7 (1996): 2073-2080.
- [5] Strichartz, Robert S. "Fourier asymptotics of fractal measures." *Journal of functional analysis* 89.1 (1990): 154-187.
- [6] Tcheremchantsev, Serguei. "Dynamical analysis of Schrödinger operators with growing sparse potentials." *Communications in mathematical physics* 253.1 (2005): 221-252.